

賀川豊彦と友愛の社会構想 — 公共的活動のあり方を考える —

日時：11月3日（火・祝） 13：00～17：00

場所：キャンパスイノベーションセンター東京・1F国際会議室

参加：参加自由【資料代として500円】（予約不要）



小南浩一（北陸大学教育能力開発センター准教授・日本近現代史）

大阪大学卒、兵庫教育大学大学院修了。博士（学校教育学）。「戦時下賀川豊彦の思想と行動」「賀川経済論の思想史的背景—ラスキンとブルードンを中心に」「賀川豊彦と大杉栄」など賀川研究の論文が多数ある。



濱田陽（帝京大学文学部准教授・宗教研究）

京都大学法学部卒、同大学大学院人間・環境学研究科修了。博士（人間・環境学）。宗教学、日本研究が専門。国際日本文化研究センター講師などを経て、現職。主著『共存の哲学—複数宗教からの思考形式』のほか、「豊かなる川のほとりに—賀川豊彦の未来—」など。



小林正弥（千葉大学公共哲学センター長・公共哲学）

東京大学法学部卒業後、同助手、千葉大学法経学部助手、助教授を経て現職。現在は、政治哲学・公共哲学の観点から「友愛」理念の可能性を探究している。主著に『政治的恩顧主義』『非戦の哲学』等。法経学部教授、地球福祉研究センター長、公共哲学ネットワーク代表。

セッション1 13：00～15：00

賀川豊彦の自然観と宗教（濱田陽 氏）

賀川豊彦と社会運動（小南浩一 氏）

セッション2 15：10～16：10

賀川豊彦の政治経済構想（小林正弥 氏）

パネル・セッション 16：10～17：00

登壇者3名によるパネル討議と会場を交えた全体討論

司会進行：石戸光（千葉大学法経学部准教授）

前回の賀川豊彦シンポジウム「友愛と公共的知識人」では、賀川豊彦を日本における公共的知識人の先駆けとして位置づける議論が行われた。今回のシンポジウムは、さらに賀川の社会運動・社会活動を公共的活動のモデルとしてどう受けとめることができるのか、小南浩一氏、濱田陽氏のおふたりを迎え、最先端の研究動向をふまえつつ講演いただく。次セッションでは、友愛・公共哲学の観点から賀川の国家・世界構想が現在どのような可能性をもつのか、小林正弥が論じる。

パネル・セッションでは、会場の質疑を交えつつ、歴史家、宗教研究者、政治哲学者とそれぞれ専門を異にする3人が賀川豊彦の現代的可能性について語り合う。

主催：公共哲学ネットワーク、(財)賀川豊彦記念松沢資料館

共催：千葉大学地球福祉研究センター

協賛：千葉大学人文社会科学研究科大学院GP

＜実践的公共学実質化のための教育プログラム＞

後援：賀川豊彦献身100年記念事業実行委員会

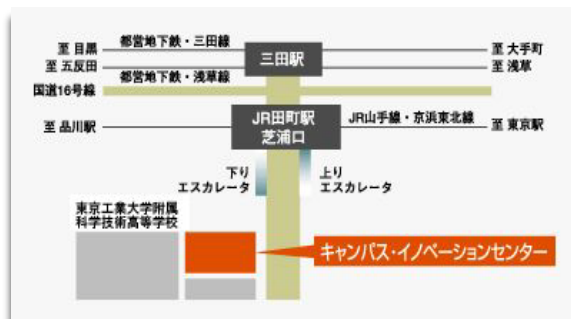
お問い合わせ先

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

千葉大学大学院人文社会科学研究科人文社会系総合研究棟3F

公共哲学センター（担当：伊丹）

Fax: 043-290-3028 / e-mail: info@public-philosophy.net



会場アクセス